



松阪市男女共同参画
シンボルマーク



ひまわり



野呂さんご家族で登山時のショット

“子育てには、男性の参画が大切”という考え方が広まるよう三重県が取り組む「みえの育児男子プロジェクト」の一環として、男性の子育てに関する写真やエピソードなどを募集した企画『ファーザー・オブ・ザ・イヤー in みえ』にて各賞を受賞された松阪市在住の方々にインタビューしました。



今年もコロナ禍で「新しい生活様式」に切り替えていく年になったと思いますが、家族の過ごし方にも変化はありましたか？

当たり前だと思っていた毎日は当たり前ではなく、家族で過ごす時間の大切さについて考える機会が増えました。

妻は家族との時間を増やしたいと、フルタイムからパートタイムに変更し、ライターの仕事も僅かですが始め、私も以前より家族と過ごす時間を増やしています。

密を避けながら、家族で山登りにチャレンジするようになり、子どもでも登ることのできる県内の山々や、松阪市西部にある「まつさか香肌イレブン」と呼ばれる11座*を、初級の山々から登り始め、山頂で食べるお昼ご飯を楽しみにしながら登っています。



野呂クレベルさん・育美さん夫妻
お子さん（11才・9才）

パパの育児フォトコンテスト
ベストショット賞受賞作品

*①局ヶ岳、②栗ノ木岳、③三峰山、④高見山、⑤木棍山、⑥明神岳、⑦檜塚、⑧池木屋山、⑨迷岳、⑩烏岳、⑪白猪山の11座を選び、松阪市が「まつさか香肌イレブン」と名付けました。

『ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ』にて、パパの子育てエピソード部門の大賞を受賞されたお二人のイクメンパパにインタビューしました。



男性の育児参画、家事への参画というのが、まだ十分に進んでいない状況のなか、育児休暇とテレワークとそれぞれ取得されましたが、職場や家庭での理解は得られましたか？

得られやすい環境にいると変ですが、学校という現場なので、女性の先生の多くが育休から復職されますし、時期が良かったのもあり、4月から1年間取得しました。

管理職や同僚の男性の先生からもバックアップがあり、環境に恵まれ、ラッキーでした。(大輔さん)



私はあまり長く仕事を休みたくなかったので、本当にありがたく思いました。(晴苗さん)

タイミングとしても、パソコン作業が多い時期だったこともあり、職場で相談すると、職場側からテレワークを提案してもらい、育児に参画することができました。(亮太さん)

伊藤大輔さん・晴苗さん夫妻
お子さん(2才)

1年間の育休を取得し、子育てをするとともに、妻の仕事もサポート。月に一度、妻と娘に手紙を贈る。

今振り返ってみて、大変だったなと思うこと、あの時は困ったなと思いつくことはないですか？



私も妻も子育て初心者なので、試行錯誤でした。その都度子育てと向き合っていたのかなあと…。お互いに得意不得意もありますし、得意な部分は自分自身で行い、不得意な部分は妻に頼っていました。(亮太さん)

なぜか日曜の夜に熱が出るもんですよね～。1回風邪をひくと保育園を一週間休むことも多いので、お互いの職場の看護休暇等を利用して2人が交代で看病できるのでありがたいです。どうしても2人とも仕事が休めないときは、おばあちゃんに頼っているという感じですかね。(見圭さん)



宮林亮太さん・見圭さん夫妻
お子さん(3才)

子どもが生まれてしばらくは、テレワークを活用し、妻と一緒に育児。その後も積極的に家事育児を行い、子どもの1歳の誕生日には「母1歳おめでとう」といって妻に指輪をプレゼント。

育休復職後、娘が保育園に入った1年目は熱を出すことが多く、松阪市の病児保育のお世話になりました。とても助かりました。(大輔さん)



これから子育てされる方や子育て真っ最中の方にアドバイスをお願いします。

もし自分が本当に取りたくて、取れる環境にあれば、前向きに考えてほしい。
学校でクラブの顧問をしている多くの先生は自分の子どもの運動会を見たこと、行ったこともないと言う。「そういう時代じゃないよな」と多くの先生が言っているし、時代の流れも変わってきていると思いますので、仕事も大事なんですけども、本当にこういったチャンスがあれば、ぜひ育児休暇や育児休業を使っていただきたい。
絶対楽しいから取るべきやと。(大輔さん)

初めは周りの人も「大丈夫なの？」と言っていたんですけど、いざ任せてみたら、ちゃんとやってくれましたし、何とかなる。私の周りの職場の人たちも理解してくれたので、どうにかなったという感じ。
あまりやる前に心配しすぎても良くなかったかなと今は思っています。(晴苗さん)



子どものことも見ているのはもちろんですけど、妻のことも見るのも大切だと思っています。今リラックスして子育てできているのかなとか、気持ちがいっぱいいっぱいなのかなと感じ取ってあげて、行動する。それが、家族でストレスを溜めずに子育てができるコツなのかなと思っています。お互いに思いやるということですね。(亮太さん)

私の生まれ育ったブラジルは多民族国家であり、子どもも子育ても、みんな違ってみんないい、違いを認め合いながら暮らしていくような環境でした。子育てで悩むこともありますが、おらかな気持ちを忘れず、笑顔を大切にしたいと思っています。(クレベルさん)

パパの子育てエピソード部門に推薦されて大賞を受賞されたときの感想は？



本当は子育てしているお父さん方全員にあげてほしい賞。それを代表していただきまして光栄だと思いました。これを機にもっと、育休が広がるというのではなくて、考え方が昔と変わればいいなと思っています。(大輔さん)



嬉しかったです。こんなに一生懸命やってくれてるのに、誰にも褒められることもなく、こんなにやってくれてるのって本当にすごいなって心から思っ
それは、普通にお母さんたちがずっと、褒められたり誰からも認められるわけでもなく、当たり前やってきたことなんだと。せめて推薦することで夫の励みになればなというのが応募の経緯です。(晴苗さん)



友達に「今回、見圭ちゃんに子育てエピソードを書いてもらったことによって、来年も子育てエピソード書いてもらえるようにせなあかんあ」と言われました。それが、面白くもあり、はっぱをかけられたなと思いました。(亮太さん)



令和3年度 事業報告

スタッフ募集

男女共同参画情報紙「ひまわり」

あなたも情報紙ひまわりの制作に参加してみませんか？



男女共同参画週間の啓発



男女共同参画週間(6月23日～29日)に合わせ、松阪ショッピングセンターマームにてパネル展示を開催しました。令和3年度のキャッチフレーズは「女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ。」です。

パープルリボン運動



11月12日～25日までは、女性に対する暴力をなくす運動(パープルリボン運動)の期間です。期間中、市役所総合受付横にて啓発展示を行いました。「パープルリボン」は女性に対する暴力根絶のシンボルです。



男女共同参画関連講座



令和4年1月15日(土)産業振興センターにて、「多様な性と男女共同参画～私たちにいまできること～」と題して、「LGBT」や「性的マイノリティ」など性の多様性について講演会を開催しました。参加された皆さんは、それぞれに「LGBT」「多様性」等への理解を深めることの必要性を感じ、これからの関わり方への意識の変化など、「いまできること」を認識されていました。

相談窓口のご案内

DV
相談ナビ

は れ れ ば
短縮ダイヤル：#8008

配偶者やパートナーからの暴力に悩んでいることを、どこに相談すればよいかわからないという方のために、全国共通の電話番号から相談機関を案内します。

- *最寄りの相談窓口につながります。
- *ご利用には通話料がかかります。

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター

は や く ワンストップ
#8891 (全国共通)

プラス
DV相談+



電話 24時間受付 0120-279-889
つ な ぐ は や く

新型コロナウイルス感染症に伴う生活不安・ストレスなどから、DV被害の深刻化が懸念されています。あなたが配偶者やパートナーから受けている様々な暴力(DV)について、専門の相談員と一緒に考えます。

- *電話・メール相談 …… 24時間受付
- *チャット相談 …… 12:00～22:00 受付
- *チャット・メール相談 …… 10か国語対応